

## 第4回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年5月2日（木）

18時～19時30分

会場：core 塩尻

### 次第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 新構成員紹介

4. 会議事項

(1) 第3回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ

(2) 視察報告

(3) 学びのイメージに係る意見交換

5. その他

次回の予定

【日時】 令和6年7月18日（木）

17時30分～18時50分

【場所】 core 塩尻

【内容】 構成員からの提言（予定）

学びのイメージ（ワークショップ）

6. 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

## 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)

	区分	氏名 (座長 ○)	所属等	グループ
1	自治体	石坂 健一	塩尻市 副市長	B
2		○ 赤羽 高志	塩尻市教育委員会 教育長	座長
3		根橋 範男	山形村教育委員会 教育長	C
4		百瀬 司郎	朝日村教育委員会 教育長	D
5		太田 幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室 室長	欠
6	産業界	小松 稔	塩尻商工会議所 会頭	A
7		塩原 悟文	塩尻市観光協会 会長	欠
8	学識 経験者	渡邊 修	信州大学農学部農学生命科学科 准教授	B
9		小林 敏一	エプソン情報科学専門学校 学校長	欠
10	地域	中島 紀彦	セイコーエプソン株式会社P総務部 部長	欠
11		松本 宏隆	セイコーエプソン株式会社P事業戦略推進部 部長	欠
12		横山 暁一	NPO法人MEGURU 代表理事	D
13		宮島 克夫	松本地域振興局 局長	E
14	同窓会	中野 重則	塩尻志学館高等学校同窓会 会長	A
15		霜田 美奈	田川高等学校同窓会 会長	C
16	PTA	押田 博	塩尻志学館高等学校PTA 会長	E
17		菱田 岳士	田川高等学校PTA 会長	D
18		山田 直幸	東筑摩塩尻PTA連合会 会長	B
19	小中学校 関係者	千村 哲朗	東筑摩塩尻校長会 代表 (広丘小学校 校長)	A
20		佐倉 俊	東筑摩塩尻校長会 代表 (塩尻中学校 校長)	D
21		永田 寛尚	松本養護学校 校長	C
22	再編 対象校	要明 幸樹	塩尻志学館高等学校 生徒代表	C
23		布川 龍空	塩尻志学館高等学校 生徒代表	A
24		金 彰俊	田川高等学校 生徒代表	E
25		竹内 輝隆	田川高等学校 生徒代表	B
26		堀内 雅司	塩尻志学館高等学校 校長	B
27		宮入 清志	塩尻志学館高等学校 教職員	D
28		宮坂 幸登	田川高等学校 校長	E
29		守屋 秀行	田川高等学校 教職員	A

## 事務局

塩尻志学館高等学校		田川高等学校		高校再編推進室	
丸山 明久	教頭・事務局長	内川 源弘	教頭・副事務局長	原 多恵子	主幹指導主事
宮入 清志		守屋 秀行		宮嶋 直美	主任指導主事 (塩尻総合学科新校担当)
寺澤 顕孝				山崎 巖	主任指導主事 (塩尻総合学科新校副担当)
深澤 和加枝					
高山 直之					
跡部 徹					
征矢 理啓					
中島 和成					

## 第3回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

<b>日時</b>	令和6年1月11日(木) 17時30分～19時		
<b>場所</b>	core 塩尻 オープンハブ		
<b>出席 (敬称略)</b>	(構成員) 石坂 健一、根橋 範男、百瀬 司郎、太田 幸一、小松 稔、塩原 悟文、小林 敏一、中島 紀彦、松本 宏隆、横山 暁一、原田 浩次(代理)、中野 重則、霜田 美奈、足助 照夫、山田 直幸、金 彰俊、竹内 輝隆、宮川 安司、宮入 清志、宮坂 幸登、守屋 秀行 (発表者) 要明 幸樹、布川 龍空、齊藤 正太、小林 昊空、須澤 茉奈香 (以上 構成員 21名 発表者 5名)		
<b>欠席 (敬称略)</b>	赤羽 高志、渡邊 修、藤森 正幸、富田 昭子、佐倉 俊、渡邊 和幸、大西 嶺士、堤 夏美 (以上8名)	<b>傍聴者</b>	10名
<b>事務局</b>	塩尻志学館高校	丸山教頭(事務局長)、寺澤教諭、野口教諭、風間教諭	
	田川高校	堀内教頭(副事務局長)、大屋教諭	
	県教育委員会	中島主幹指導主事、原主任指導主事	
<b>当日資料</b>	次第、第2回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)、各高校発表資料、配席図		

### 会議事項

- (1) 第2回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 学校・学びの紹介
- (3) 学びのイメージに係る意見交換

### 講演会概要・質疑応答(要旨)

#### 【高校生による学校・学びの紹介】

##### <塩尻志学館高校>

- ・総合学科は「やりたいこと」を見つける学科。
- ・自分の興味関心、進路に合わせて、自ら科目を選び学ぶことができる。
- ・シオジリ学をはじめ、地域と連携して探究学習に取り組んでいる。
- ・新校に期待することは、多様性を取り入れた校則づくりなど「今までの学校常識にとらわれない学校」。また、日常的に全学年が関わりを持てる学校。「両校の良い部分+新しい取り組み」で、今までにない学校づくりをしたい。

##### <田川高校>

- ・景観の良さが魅力。タブレットを使っての学習は、他校より早く取り入れている。
- ・部活動や学校行事も活発。生き生きと取り組んでいる。
- ・今後、生徒会活動で取り組んでいきたいことのキーワードは「ライブ」、「主人公」、「地域」。
- ・新校でも大切にしてほしいことは、「自分が主人公と思えるような活気あふれる学校」、「地域から大切にされ、つながる学校」。

#### 【構成員から出された質問・意見】

- ・両校の伝統や持ち味、色合いを活かして、1+1が3にも4にもなるような学校になってほしい。
- ・県内だけでなく全国にも広く知れ渡るような学校になってほしい。
- ・他者への思いやりや道徳心も大切にしてほしい。
- ・変化していく未来に向けて、逆算的に考えたらどうか。
- ・テストの点数といった数字だけでなく、生徒個々の実践的な力をみてほしい。
- ・活躍の場、チャンスのある場として、ぜひ地域をどんどん活用してほしい。
- ・地域の小中学校、専門学校も活用してもらい、そこで学んだことを単位として認めてもらえたらおもしろいのではないかと。
- ・高校生のうちからこのようにプレゼンができることは素晴らしい。
- ・自分の時代には探究学習がなかったので、今の高校生がうらやましい。

### その他

#### 【次回】




日時：令和6年4月下旬 18時～19時30分

会場：core 塩尻

内容：視察報告、目指す学校像(ワークショップ)

# 「塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会」のスケジュール（案）

高校再編推進室

年度	月・日	懇話会 校地検討会議	内 容
令和5年度 (2023年度)	8月25日	第1回懇話会	○「県教委より説明」 ・実施方針、三次の説明
	10月25日	第2回懇話会	○目指す学校像（ビジョンの共有） ・アドバイザーによる講演会 （講師）筑波大付属坂戸高等学校 副校長 深澤孝之氏 「今後の総合学科に求められるもの」 ・質疑、意見交換
	1月11日	第3回懇話会 第1回校地検討会議	○目指す学校像 ・各校生徒による発表（現在の高校の取組み、新校への期待） ・グループワークによる意見交換
	5月2日	第4回懇話会 第2回校地検討会議 校地検討委員会は進捗状況に応じて開催	○目指す学校像 ・視察報告（県外先進校視察） ・グループワークによる意見交換
	1・2ヶ月に1回開催予定		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;意見交換項目&gt; <b>学びのイメージづくり</b></p> <p>○学校像、育てたい生徒像 <u>学びの柱 具体的な取り組み（※）</u> （どんな学びを展開するか、学びを実現する仕組みや取り組み、リソースの活用、ハード、ソフト両面から）</p> <p>○設置課程 ○活用する校地・校舎 ○募集開始年度 ○募集学級数</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>「再編実施基本計画」を教育委員会定例会で決定</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p><b>統合事件案を県議会で同意</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>新校準備委員会を中心に校名、学校運営、地域協働、進路、生徒会、校歌・校章など細部にわたり検討 ⇒ 懇話会で意見交換</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>新校開校まで随時（3～4回／年）程度開催</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div>

**新校開校**

## 塩尻総合学科新校(仮称)の学校像として考えられる姿(例)

普通科目



職業科目  
(専門科目)



現代の諸課題  
に対応する  
学校設定科目

希望進路や興味関心に基づいて  
自分だけの時間割を主体的に創りながら自らのキャリアを構想する  
**キャリアデザイン高校**



# 塩尻総合学科新校(仮称)

総合学科  
(単位制)

塩尻市唯一の県立高校として、地域資源を活用した探究活動を実践

両校の地域連携を継承する共学共創プラットフォーム

# 中野総合学科新校（仮称）再編実施基本計画

## 1 再編統合対象校

中野立志館高等学校、中野西高等学校

## 2 募集開始（開校）年度

令和 12 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 12 年度を新校の募集開始年度とする。

## 3 活用する校地・校舎

中野立志館高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、学びを支える施設・設備等の学習環境、隣接施設の有用性の観点から中野立志館高等学校の校地・校舎を活用する。

## 4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 7～8 学級程度

定時制課程 普通科 1 学級

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

総合学科のシステムを使いながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていくための多彩な教科・科目を開設する。

募集学級数は、旧第 2 通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7～8 学級程度が想定される。

現在の中野立志館高等学校定時制は、中野総合学科新校に移管する。

## 5 学びのイメージ

別紙のとおり

中野立志館高等学校の総合学科、中野西高等学校のユネスコスクール<sup>注1</sup>の学びを継承し、ユネスコスクールの中心となる学びである ESD（持続可能な開発のための教育）<sup>注2</sup>をベースにグローバルな人材育成を目指す、地域全体を学びのフィールドとした地域の学びの拠点となる総合学科高校を構想する。

注 1) ユネスコスクール：ASPnet (UNESCO Associated Schools Project Network)

・ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校

注 2) ESD (Education for Sustainable Development)：持続可能な開発のための教育

・人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できる社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動

## 6 施設整備

新校の学びに必要な施設設備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

# 未来に挑戦するための総合学科高校

目指す学校	○挑戦	様々なことに挑戦し、失敗しても粘り強く取り組む力を育む
	○創造	自己と他者を見つめ、社会と積極的に関わりを持ち、変化に柔軟に対応できる創造力を育む
	○協働	地域から世界まで、幅広い視野を持ち、他者と協働し未来社会に貢献できる人を育てる

## 総合学科×ESD(持続可能な開発のための教育)

- キャリアデザイン
- 多彩な科目
- 探究学習・ESD

### ○多様な進路希望に対応できる教育課程

- 自分だけの時間割を作成
  - ・キャリアデザイン・ライフデザインに繋がる多彩な系列(科目群)から自由に選択
  - ・大学進学に特化した科目選択も可能
- バラエティーに富んだ学び(系列=科目群)
  - ・普通科目(国語、数学、外国語、芸術等)と専門科目(工業、商業、農業、家庭等)に加え、デジタル(AI、ロボット)、福祉、観光等の現代的な課題にアプローチする学び

### ○自分の「好き」や「強み」を究める学びを卒業単位として認定

- 単位制の自由度を活かした学校外の様々な取組などを単位認定
  - ・ボランティア活動や長期インターンシップ等の体験的な学び
  - ・英検・漢検などの各種資格取得
  - ・長期・短期の海外留学
  - ・大学生や地域の方とともに取り組む自主的な探究活動
- オンラインの活用等による学び
  - ・大学の講義の受講(先取り履修)、専門学校での体験的な授業や他の高校の授業の履修

### ○環境、地域の課題や国際理解について地域と協働して取り組むESD

- 地域全体を学びのフィールドとした学習活動
  - ・多様性受容力を高め、学びを深めるための地域共学共創コンソーシアムとの連携(地域の人などを外部講師として活用した授業、地域と協働したフィールドワーク等)
- 異文化理解を深めるための海外との交流や海外留学への支援
  - ・国内外のユネスコスクールとの交流やESD協働学習
  - ・国内外の姉妹校との交流
  - ・地域の教育資源(観光等)を活用した国際交流
  - ・地球規模の課題(平和、貧困・格差等)に取り組むための学校が独自に設定する科目
  - ・信州つばさプロジェクトの積極活用

### 地域共学共創コンソーシアム



大学・専門学校  
幼保小中高



研究・医療  
福祉機関



地域産業



自治体

### ユネスコスクール



【中野立志館高校の定時制課程は中野総合学科新校に移管】



# 須坂新校（仮称）再編実施基本計画

## 1 再編統合対象校

須坂東高等学校、須坂創成高等学校

## 2 募集開始（開校）年度

令和 11 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 11 年度を新校の募集開始年度とする。

## 3 活用する校地・校舎

須坂創成高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、専門科と新たな普通科（仮称：みらいデザイン科）の連携を実現していくために、須坂創成高等学校の施設・設備を活用する。

部活動など生徒の自主的活動のため、引き続き旧須坂商業高等学校のグラウンドや体育館等の施設を活用する。

## 4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科・みらいデザイン科（仮称）

4 学科あわせて 7 学級程度を想定

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

みらいデザイン科（仮称）は、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により設置可能となった「新たな普通科」の 1 つである、地域社会に関する学科<sup>※</sup>として設置する。また単位制を導入し、他学科の授業も選択できる、個別最適な学びにふさわしい教育課程を編成する。

北信地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7 学級程度が想定される。

注）現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。

## 5 学びのイメージ

別紙のとおり

地域をフィールドとした探究を学びの中心に据え、「実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校」を構想する。

## 6 施設整備

新校の学びに必要な施設及び、地域連携の実現のため必要な機能の整備を図る。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

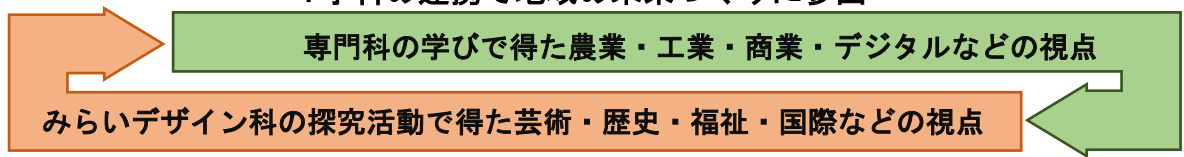
生徒像	育てたい ○ 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒 ○ 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒 ○ 多様な他者とつながり、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒
-----	--

学校像	目指す ○ 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む ○ 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む ○ 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む
-----	---

地域の未来を、地域の方々と共に創る  
**コミュニティデザインハイスクール**



4 学科の連携で地域の未来づくりに参画



学びの柱	◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開 ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施 ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用
------	--

具体的な取組	○ 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など） ○ 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び） ○ 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など） ○ 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動） ○ 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐 ○ 地域との協働による生涯学習の拠点づくり
単位制	学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化 学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に
連携	コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携 地域を学ぶ国内外の高校生と交流

地域の方々との共同研究 **須高地域共学共創コンソーシアム** 新校が生涯学習の拠点



# 第4回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 グループワークのテーマについて

## テーマ

- こんな生徒を育てたい
- 目指す学校像
- 生徒がどんなことができる高校にしたいか  
～こんな学びをしてみたい、こんな学びがあったらいいな～

## グループワーク

話しやすい雰囲気づくりのための 4つのお願い 🗣️

- 「自分の発言は3割、傾聴を7割の割合で」
- 「良いアイデアを出さなければと思わない」
- 「相手の話は途中でさえぎらない」
- 「他の人の意見を否定しない」

\* ルールを大切にしながら 生徒目線で積極的なご意見をお願いします

## 《参考》

- ・視察報告
- ・再編・整備計画【三次】で示した学校像
- ・第3回懇話会のまとめ

など

# MEMO